

沖縄国際大学FD支援プログラム 2014年度公募プロジェクト  
社会文化学科新カリキュラムをモデルとした  
ナンバリング制度導入可能性の検討  
報告書

申請者 藤波 潔（総合文化学部准教授）

## I 申請時の計画

### 1. 活動目的

中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では、学生の学修時間の実質的な増加との関連で、「当該大学、学部、学科等が提供している教育課程の内容に関心を持つ全ての人に教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号をつける（ナンバリング）など、教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫が必要である」と指摘されている。

2014年度から始まる社会文化学科の新カリキュラムは、教育課程の体系化を意識して策定したが、このカリキュラムの意図を学生に徹底するための手立ては不十分である。そこで、新カリキュラムをモデルとしたナンバリング制度導入の可能性を研究し、学内のパイロット・ケースとしての役割を果たしたいと考える。

### 2. 活動計画・方法

#### 【第1段階（4～7月）】

- ・ナンバリング制度に関する高等教育研究の把握
- ・ナンバリング制度を導入している他大学の情報収集

#### 【第2段階（8～9月）】

- ・ナンバリング制度を導入している他大学関係者に対する聞き取り調査

#### 【第3段階（10～2月）】

- ・聞き取り調査についてのまとめ
- ・学科内での議論の展開と集約

※ Q-Links 主催の Q-Conference 等での公表を予定している。

### 3. 予想される効果

- (1) 社会文化学科の学生に対して、学科教育課程の意図と体系を理解する方法を確立することで、学科学生の学修の質の向上を図ることが可能となる。
- (2) 『履修ガイド』の記載内容を再検討する材料を提供することが可能となる。
- (3) 学外の知見や経験を調査した上で学科での議論を重ねることで、本学や学科の実情に応じた制度を開発し、他学科への参考に供することが可能となる。
- (4) Q-Conference 等での発表を通じて、学外からの多様な意見を集め、制度の質を高めると同時に、本学のFD活動について学外へアピールすることが可能となる。

### 4. 経費 省略





















